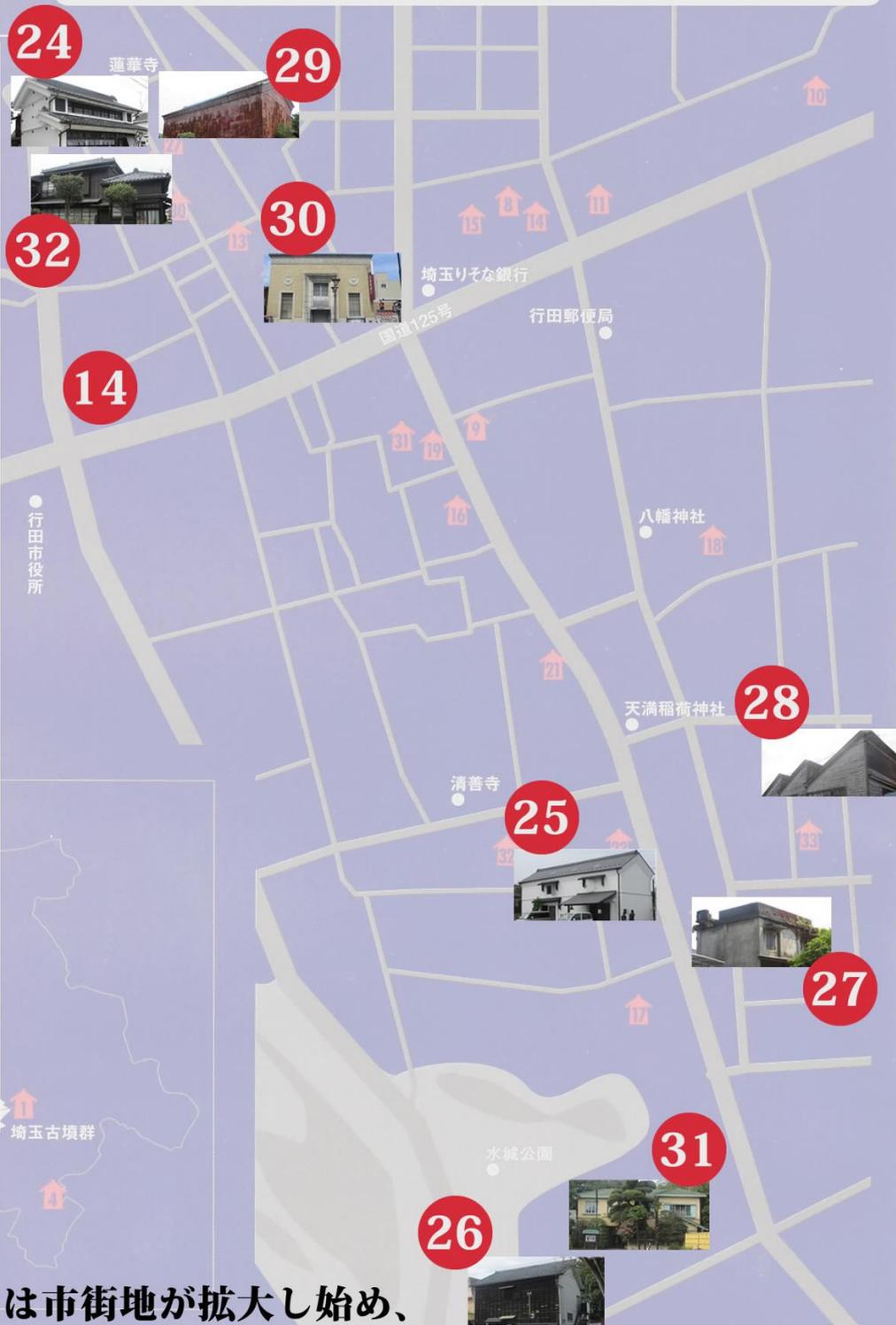


⑤昭和戦前の住宅、店舗、足袋蔵・工場



昭和初期の行田は市街地が拡大し始め、町内から郊外へと足袋工場が次々に進出し、大規模化が進行しました。以降の足袋蔵はモルタル造りが主体になられるようになりました。そして昭和恐慌を脱した行田の足袋は昭和13年には「約200社の足袋商店で年間約8500万足、**全国の約8割を生産**」する誇れる街に成長しました。

昭和初期の行田は市街地が拡大し始め、手狭な町内から郊外へと足袋工場が次々に進出しました。現在のイサミ工場など大規模工場も建てられるようになり、足袋生産の大規模化が進行していきます。昭和初期以降、足袋蔵はモルタル造りが主体になり、コンクリート造りのものも見られるようになりました。昭和恐慌を脱した行田の足袋産業は持ち直し、昭和13年には「約200社の足袋商店で年間約8500万足、全国の約8割を生産」する誇れる街に成長しました。『日本一の足袋のまち』。一方、昭和12年の日中戦争を契機に陸軍が行田の工場を管理・監督するようになり、翌年から防寒帽の縫製が命じられました。一方、足袋製造・販売自体も昭和12年以降戦時統制化に追い込まれ、休業する工場が続出しました。昭和17年(1942)には184の足袋業者は24の有限会社と1個人商店に企業統合され、行田足袋産業は軍需生産一色に染まってゆきました。



【昭和時代の建設①～】

- ①『奥貫蔵』大正～昭和初期の足袋蔵(土蔵) “足袋産業の栄華を伝える足袋蔵”
《「奥貫忠吉商店」明治20年創業商標:ほうらい足袋》
 - ②牛懐石『彩々亭』昭和元年・7年・10年の住宅兼事務所を改装したもの。
《かつては足袋御殿と呼ばれたの旧新井八郎商店の事務所・兼住宅・大広間棟・洋館》
 - ③『行田窯』昭和初期の木造倉庫《「荒井八郎商店」の足袋原料の【木造】倉庫 商標:穂国足袋 現 陶芸工房》
《足袋蔵を再活用した陶芸工房》
 - ④『イサミ足袋工場』昭和初期のノコギリ屋根の木造洋風工場
《「鈴木勝次郎商店」の大規模足袋工場。商標:イサミ足袋 現:イサミコーポレーション》
- 昭和3年足袋商店の大規模な工場が多数進出してきました。そうした住居地から完全に独立した大規模足袋工場のさきがけとなった工場です。

個人商店から企業へと発展して行った昭和初期の足袋産業を象徴する近代化遺産です。

- ⑨『小川源右衛門蔵』昭和7年(1932)の店蔵(石蔵) 《昭和初期の酒屋さんの石蔵 現:カネマル酒店》
- ⑤『鯨井家倉庫』昭和3年(1928)建設の足袋原料倉庫。《現存する市内唯一の戦前の鉄骨コンクリート造の足袋蔵》
- ⑥『時田足袋蔵』昭和4年(1929)の足袋専用倉庫【土蔵】《「時田啓衛門商店」明治28年(1895)創業、商標:かるた足袋、さくら都足袋》
- ⑦『忠次郎蔵』昭和4年(1929)の店蔵(土蔵)
《「小川忠次郎商店」大正9年開業 現:そば打ち教室「忠次郎蔵」国登録有形文化財》
- ⑧パン屋『翠玉堂』昭和4年(1929)の町屋
《山田三之助の店舗(山田荒物店) 現:天然酵母パン屋》《町屋を再活用したアートな。パン屋》
- ⑩『武蔵野銀行』昭和9年(1934)の店舗《足袋のまちを支えた銀行建物》
- ⑪『牧禎舎』昭和15年(1940)の事務所兼倉庫と工場。